石川県輪島市市街 解体が進まぬ風景（撮影：2025 年 1 月 6 日）

あらためて奥能登の復興を考える

日時：2025.02.08（Sat）開場 13:30、開演 14:00

会 場：東京都渋谷区道玄坂 1 丁目 10-7　五島育英会ビル地下 1 階小教室

石川県輪島市門前町 鹿磯漁港 4m 隆起地盤（撮影：2025 年 1 月 6 日）

奥能登の震災から 1 年。なかなか進まない復興には奥能登特有の問題が潜んでいる。
建築構造、地盤、まちづくりの専門家が現状をリポート。これからの復興を考えます。

濱本 卓司
東京都市大学名誉教授
日本建築学会賞（論文・構造）受賞

鈴木 直子
㈱大林組 技術研究所
地盤技術研究部 所属

宮坂 智信
石川県建築士事務所協会 理事
㈲宮坂設計 代表取締役

阿部 寧
建築・街づくり支援センター理事長
著書：階上都市 津波防災地域を救う街づくり

石川県内灘町周辺 液状化現象（撮影：2025 年 1 月 5 日）

「あらためて奥能登の復興を考える」

日時：2025 年 2 月 8 日（土）13:30 開場、14:00 開演

スケジュール

13:30 開場
14:00 挨拶および主旨説明：濱本（約 5 分）
14:10-14:25　発表 1、被災地の現状：宮坂（15 ～ 20 分）
14:30-14:45　発表 2、地盤と基礎構造の被害：鈴木（15 ～ 20 分）
14:50-15:05　発表 3、少子高齢化・過疎と震災：阿部（15 ～ 20 分）
15:10-15:40　発表 4、「外浦」と「内浦」：濱本（30 分）
15:45-16:00　発表 5、浮遊式漁港の提案：濱本（15 分）
16:10-17:00　座談会
（司会・進行：栗田祥弘）

場所：東京都渋谷区道玄坂 1-10-7
五島育英会ビル地下 1 階小教室

宮坂 智信（みやさか としのぶ）：石川県建築士事務所協会 理事、（有）宮坂設計 代表取締役

発表１：被災地の現状

『あらためて奥能登の復興を考える』前段として「能登半島の概要」を以下の５項目に分けてご説明いたします。
①地形・地質景観、②交通網、③人口動向、④産業（漁業、農業、工芸等）⑤歴史
令和６年１月１日の地震、９月豪雨等、幾度となく足を運んだ体験も踏まえ、能登の特徴・現状をお伝え出来たらと思います。国内においても過疎代表地ともいわれる地域で発生した広域な災害、10 年程度過疎の進行が早まったと地元メディアで報道されています。今後能登のみならず、各地で直面すると思われる事象を話し合えればと思います。

鈴木 直子（すずき なおこ）：（株）大林組 技術研究所 地盤技術研究部

発表２：地盤と基礎構造の被害

地盤・基礎構造分野の専門家の立場で、昨年２月から１０月にかけて日本建築学会の調査団の活動など数度の現地調査を行いました。地盤条件に起因した建物被害の地域性を踏まえ、復興の在り方を考えるための話題提供として、地盤の液状化が広範囲で発生した金沢近郊の内灘町、護岸の破壊に伴い高層建物が傾斜した和倉温泉、杭基礎の中層建物が転倒した輪島市街の被害状況を報告します。

阿部 寧（あべ やすし）：建築・街づくり支援センター 理事長

発表３：少子高齢化・過疎化と震災

被災地域の復興活動は難しい。ソフトとハードの両面で考えると、特にソフトな面が被災者の心の傷を癒し考えを引き出すことの難しさは計り知れない。一方、ハード面は、期待に応える多様な提案が可能だが絵に描いた餅になりかねない。両面がバランスよく働けば上手くいくのだろう。復興の構想図はいくらでも描けるが、絵だけが先行すれば、空振りに終わる危険性がある。絵にするまでの過程が最も大事である。関係者の努力を無駄にしないためにも。最も重視すべきは住民の意見で、加えてコーディネーター（プランナー）、行政マン、ディベロッパー、などの参画も不可欠。その組織づくりを事前に行ないたい。また、復興計画の前提を忘れてはならない。将来の変化に見合った条件設定が重要だ。「人口減少と少子高齢化」問題など、社会の変化に対応できる構想立案である。被災対象地域の社会事情を把握して、それを前提にじっくりと取り組む仕掛けが重要で、急がば回れである。

濱本 卓司（はまもと たくじ）：東京都市大学名誉教授、（株）AU モニタリング 代表、日本建築学会賞（論文）受賞

発表４：「外浦」と「内浦」、　発表５：浮遊式漁港の提案

昨年１月１日に発生した能登半島地震から２か月後の３月１日～4 日の４日間、主に能登半島北部の海岸線に沿って被災状況を調査した。能登半島北部の海岸線は、日本海に直接面する北側の「外浦」と富山湾に面する東側の「内浦」に分けられる。海底断層にほぼ並行して走る北部海岸線の「外浦」では最大で 4m の地盤隆起と海岸線に沿う急峻な崖地の土砂崩れが生じた。一方、水深がきわめて深くなる「内浦」では最大で約 5m の津波が地震直後に押し寄せた。この「外浦」と「内浦」における農漁村集落の被害は、能登半島の漁業継続性に大きな問題を投げかけている。日本海の豊かな漁場をもつ能登半島北部の漁業を継続させるための支援は考えられないだろうか。4 日間で走破した当時の能登半島北部の海岸線の状況を報告（30 分）するとともに、1999 年度日本建築学会賞（論文）を受賞した「海洋建築物」に関する研究テーマの発展形として、壊滅的な能登半島北部の漁港を短期間で復活させるために「浮体式漁港」の建設、運営、維持管理に関する提案（15 分）を行う。

ご参加の方は、お名前、連絡先を前日までにメールか電話にてご連絡ください。

お問い合わせ先：東京都市大学同窓会如学会　jyogakukai.tcu@gmail.com /　080-5130-0111（担当：栗田祥弘）